

坪毛沢 木堰堤群



4号木堰堤

現地で調達されたヒバ被害木によって「昭和29年」に施工された。倒木(中央)によってゆがみが生じているものの、まだ健在である。

文と写真◎玉井 幸治 Tamai Koji

研究ディレクター

山道を歩いていて、溪流に設けられた小さなダムのようなものを見かけたことはありませんか？ それはもしかしたら、通称「治山ダム」と呼ばれている「治山堰堤」かもしれません。治山堰堤には、斜面崩壊が発生したときに流下する土砂を堰堤の上流側に留め、下流に被害を及ぼさないようにする役割のものと、上流側での山腹崩壊を防ぐ役割のもの2種類があります。

青 森県五所川原市の飯詰山国有林にある坪毛沢はその昔、豪雨による山腹崩壊を繰り返し、下流に被害を与える暴れ沢として恐れられていました。そのため大正5年～昭和33年の間に11基の木製治山堰堤が設けられました。これらは「坪毛沢木堰堤群」と呼ばれ、林野庁の「後世に伝えるべき治山（よみがえる緑）」に選定されています。当時、コンクリート堰堤に必要な硬い石材を現地調達できなかったことから、現地のヒバ被害木を用いて設けられました。

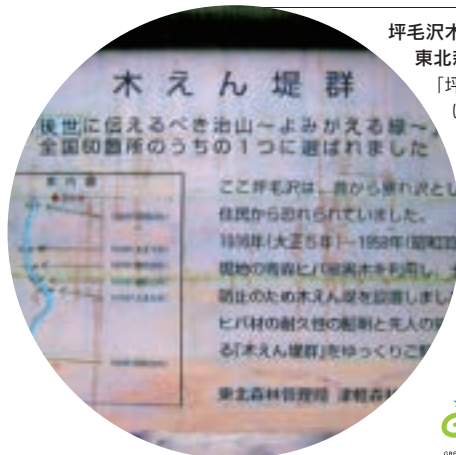
スギは植栽されてから20年ほどは根系の発達が不十分なため、山腹崩壊を防ぐ力が強くありません。そのため坪毛沢では、根系が十分に発達するまでの間、11基の木製治山堰堤が、山腹崩壊防止機能を補強する役割を担っていました。

現在では、坪毛沢の山腹斜面は立派なスギで覆われています。それは、まだスギが小さかった時期に山腹崩壊が発生しなかった結果です。大正5年に設けられた木堰堤の中には、すでに流亡したものや、高さ数十センチほどの部分しか残っていないものもあり、いま坪毛沢の木堰堤群はその役割を終えつつあります。♥



3号木堰堤部材の劣化状況の調査

長年の水や土砂による摩耗のため、ヒバ材は先端が細くとなり、部材の一部は流亡している。



坪毛沢木堰堤群を紹介する東北森林管理局の看板「坪毛沢木堰堤群」は、いまでは、後世に伝えるべき林業遺産としての役割を果たしている。